

資料3

今後の医学教育の在り方に
関する検討会（第14回）

R7.5.21

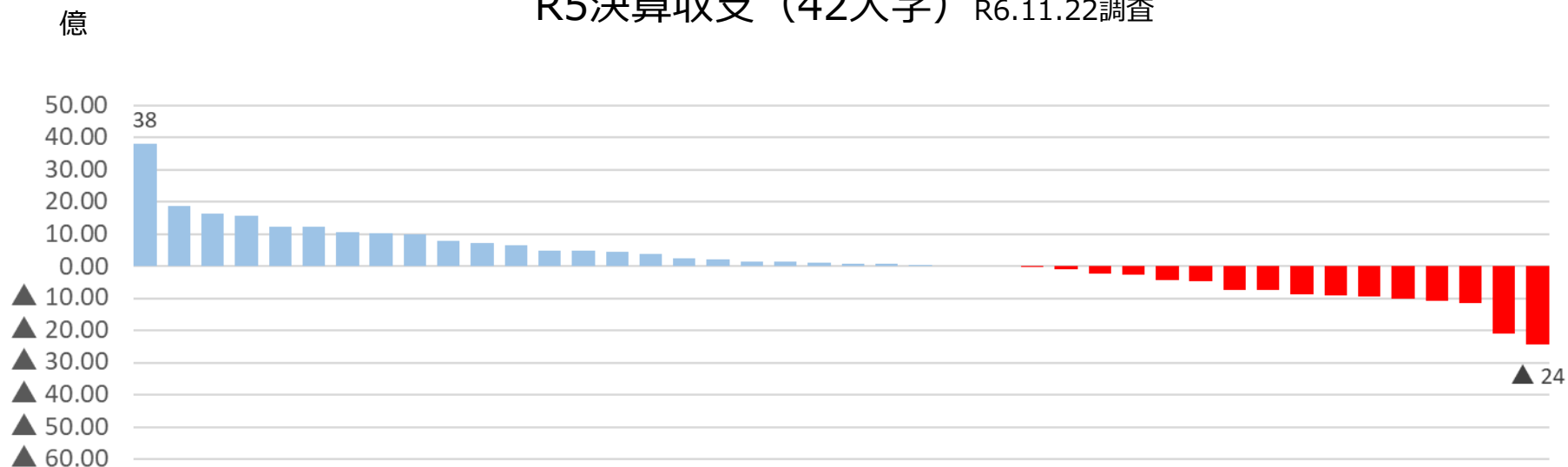
大学病院の会計情報について

R7.5.21

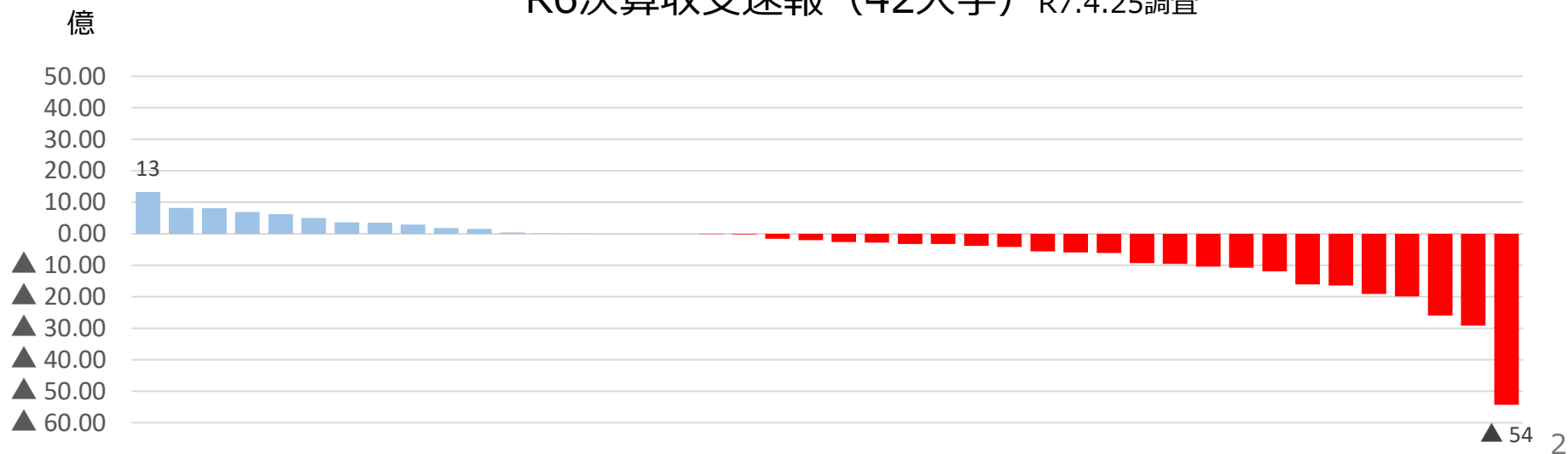
国立大学病院長会議 塩崎英司



R5決算収支（42大学） R6.11.22調査



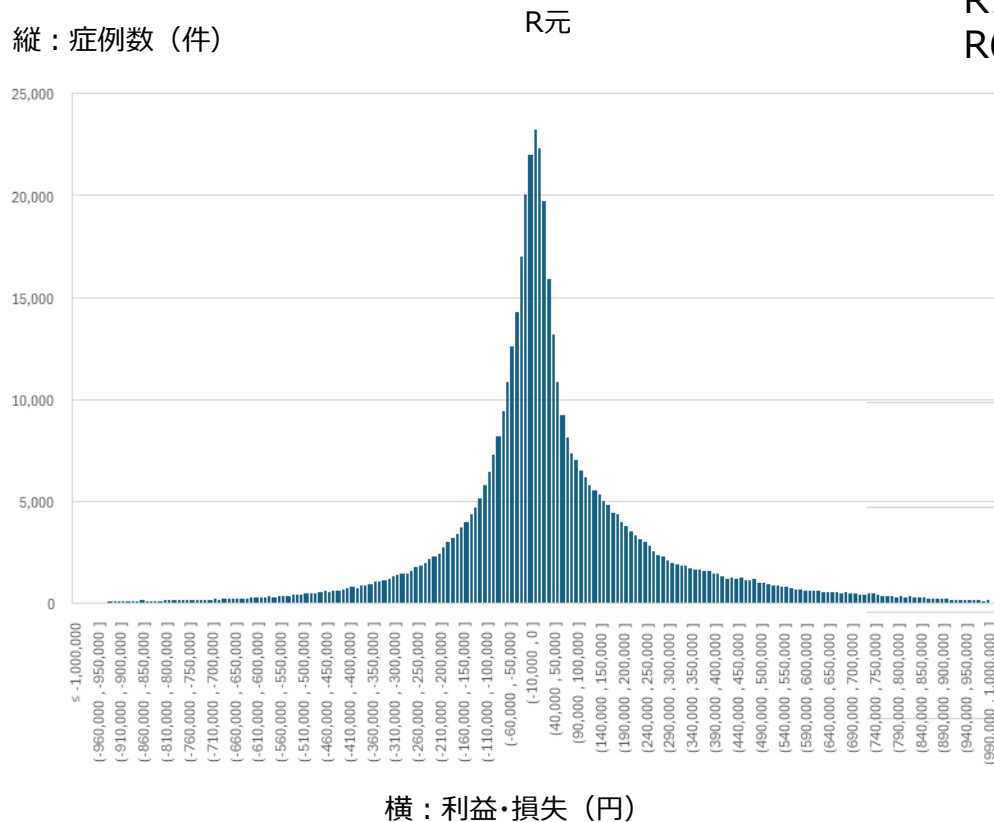
R6決算収支速報（42大学） R7.4.25調査



国立大学病院の収支分析

令和元年および令和6年4月～12月に退院した患者※1について、入院期間中の収益と、医薬品・医療材料・人件費・委託費など（減価償却費を除く）の費用に関して、それぞれの金額帯ごとの症例件数をまとめたもの

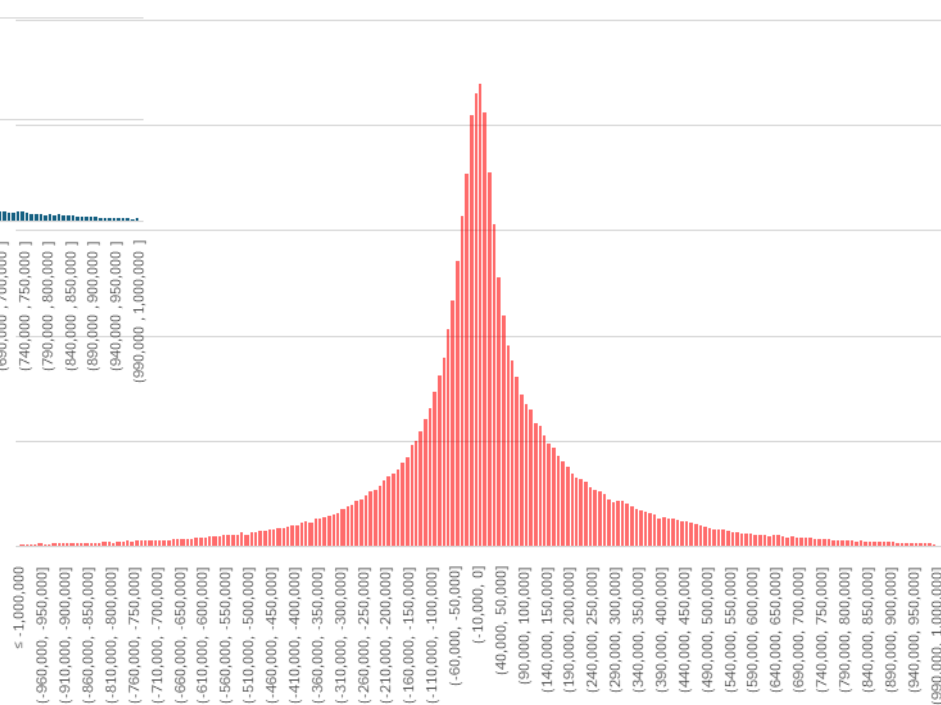
縦：症例数（件）



R1 502,350症例（年間推計値 669,800症例）
R6 526,560症例（年間推計値 702,080症例）

横軸が利益または損失の金額区分
縦軸が症例件数

R6



利益が±0症例を中心に、右側が利益出ている症例、左側が損失の出ている症例

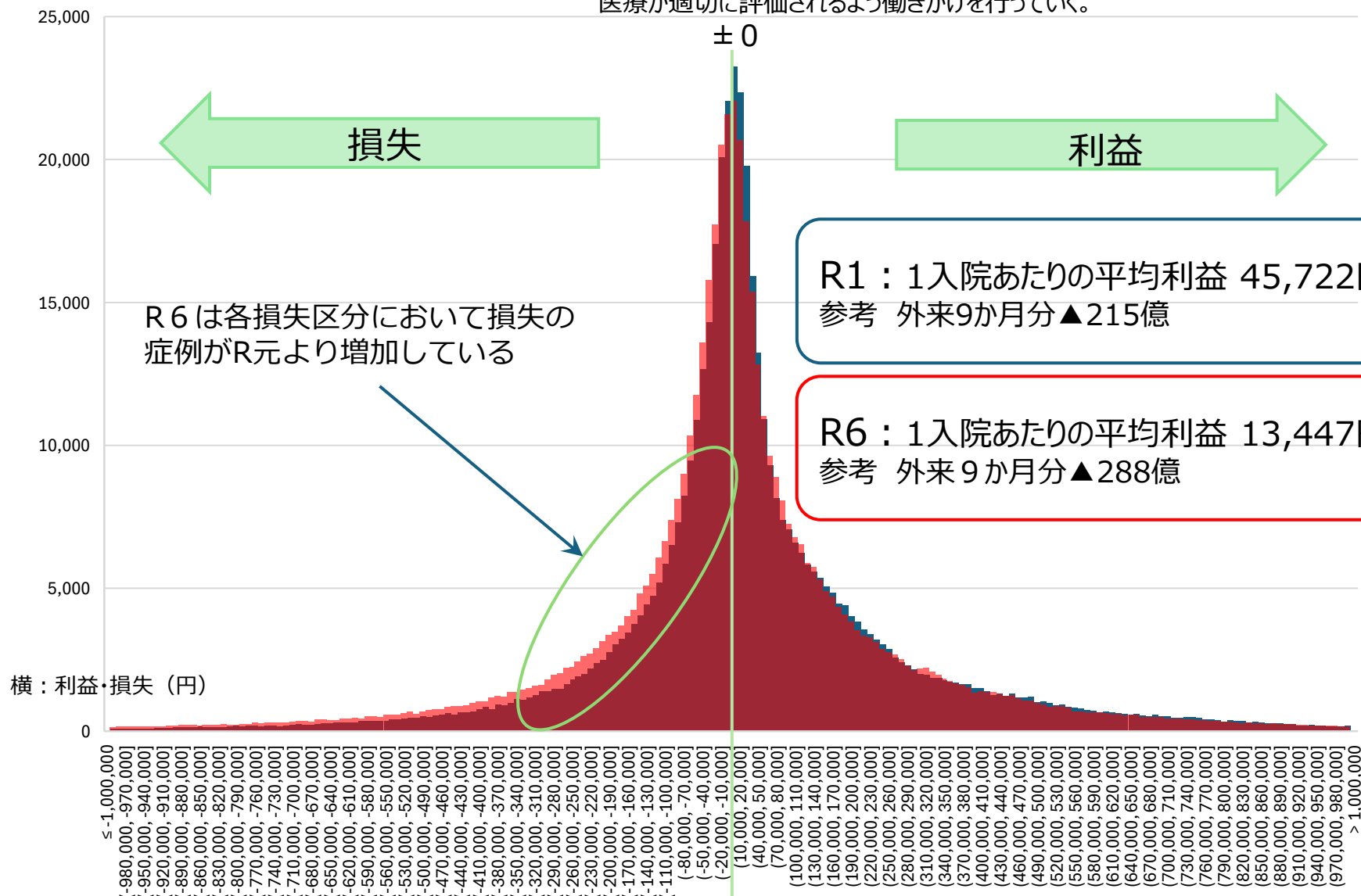
※1 令和7年1月～3月のDPCデータはまだ未提出のため、比較を公平にするために令和元年のデータも同じく9か月分（4月～12月）にそろえた。

国立大学病院の収支状況 R元とR6

縦：症例数

■ R1 利益・損失
■ R6 利益・損失

- ・ 1 入院あたりの利益が減少しており、病院全体の収支悪化の大きな要因の一つとなっている。
- ・ 今後、さらなる分析を進め、診療報酬改定等に向けて、国立大学病院が行う高度医療が適切に評価されるよう働きかけを行っていく。



国立大学法人の病院に関する決算関係書類の構成

BS（貸借対照表）：資産と負債のバランス

資産の部		負債の部	
固定資産 建物 機器		借入金	
流動資産			
現預金		純資産 利益剰余金	

大学全体

病院部分

PLの内訳

セグメント情報：各部門の売上と費用

全学共通	病院	他学部
売上	売上	売上
費用	費用	費用
利益・損失	利益・損失	利益・損失

CS（キャッシュフロー計算書）
：現金の出入りを目的別に整理

業務CF ：業務でできたお金	
投資CF ：機器更新等の 投資で使った	
財務CF ：借金と返済のお金	
期首の現金と期末 の現金残高	

PL（損益計算書）
：売上と費用から利益か損失か

売上 ：収益として入った または入る予定	
費用：支払った または支払う予定	
利益または損失	

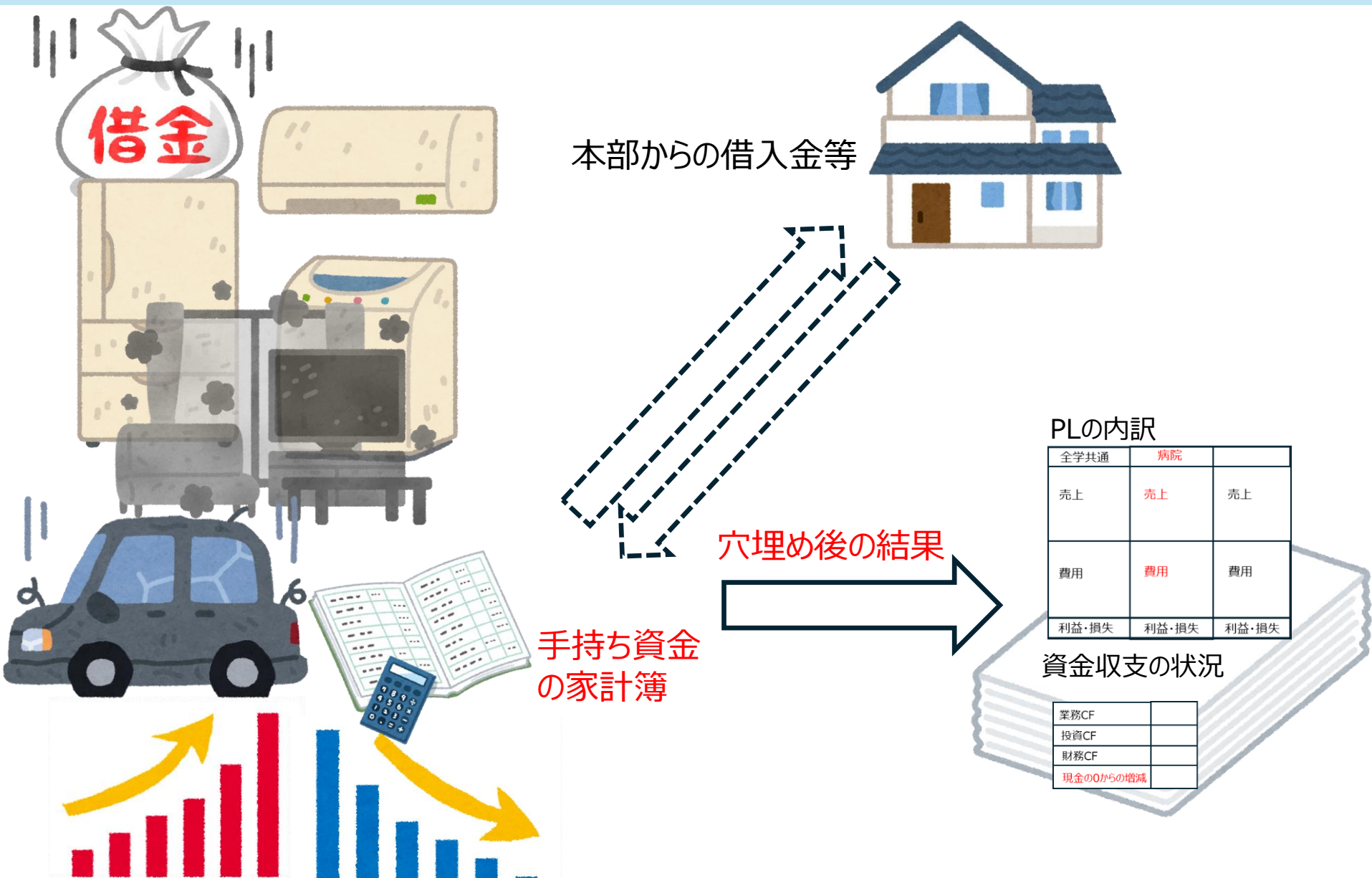
≠

病院の建物と機器の減価償却後の現在額

資金収支の状況（キャッシュフロー計算書）
：現金の増減をPLから目的別に整理

業務CF	
投資CF	
財務CF	
現金の0からの増減	

国立大学病院に関する財務会計の現状を家計に例えると



収益増 - それ以上の費用増 = 減益 ➡ 損失

○ これまで国立大学病院は増収努力を重ねてきたが、資金不足で多くの病院で中長期的な経営計画が実現できず、資産更新を抑制するなどして、毎年度の現金収支の中で対応してきたのが実情である。このような状況において、昨今の医薬品材料等の高額化や医師の働き方改革対応なども含めて物価賃金が急激に高騰しており、経営は限界に達している。

○ また、大学全体としてBSを作成しているため、病院の現預金など資産の実態が分かりにくいという状況もある。

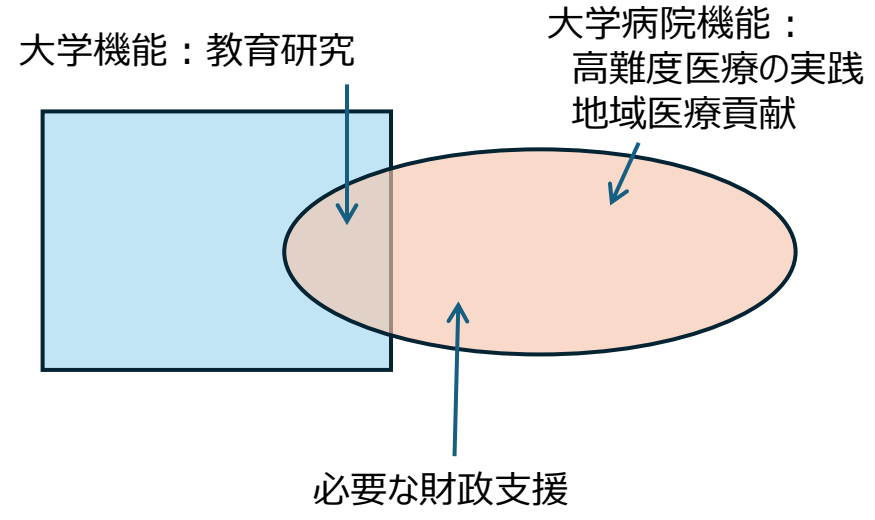
○ そこで、病院の財政的な自律性を高め、資金管理も含めた上で、自己努力も重ねながらも、社会的使命を果たすために必要な財源の必要額を見える化するべき時だと考える。



<結論>

○ まずはいくつかの大学病院が自主的に、例えば中期目標開始年度を起点とした病院BSを試作するなどして、今後安定的に病院運営に必要な資金充足度が可視化され、将来の経営改善計画の作成に資するものとなるかどうか等について検証を行う。

＜大学病院機能は大学機能を超過＞



病院経営の見える化

財源支援と
資金循環の検証

病院BS

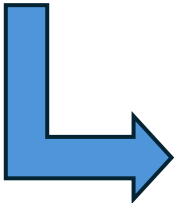
資産の部		負債の部	
固定資産 建物 機器		借入金	
流動資産 現預金			
		純資産 利益剰余金	

病院CS

業務CF ：業務でできたお金	
投資CF ：機器更新等の 投資で使った	
財務CF ：借金と返済のお金	
期首の現金と期末 の現金残高	

病院PL

売上 ：収益として入った または入る予定	
費用：支払った または支払う予定	
利益または損失	



投資

教育研究
高難度医療
地域医療貢献



効果

教育研究としての成果
高難度医療の効率的実現
地域人材の輩出

回収

研究成果による競争力回復と外部資金獲得
生産性向上による収益確保
地域貢献の経済効果

単年度ごとの経営から**投資と回収**計画を含めた企業会計的経営へ改善

参考資料1

130010xx97x2xx 急性白血病 /手術名 あり/ 手術・処置等 1 / 手術・処置等 2 2あり

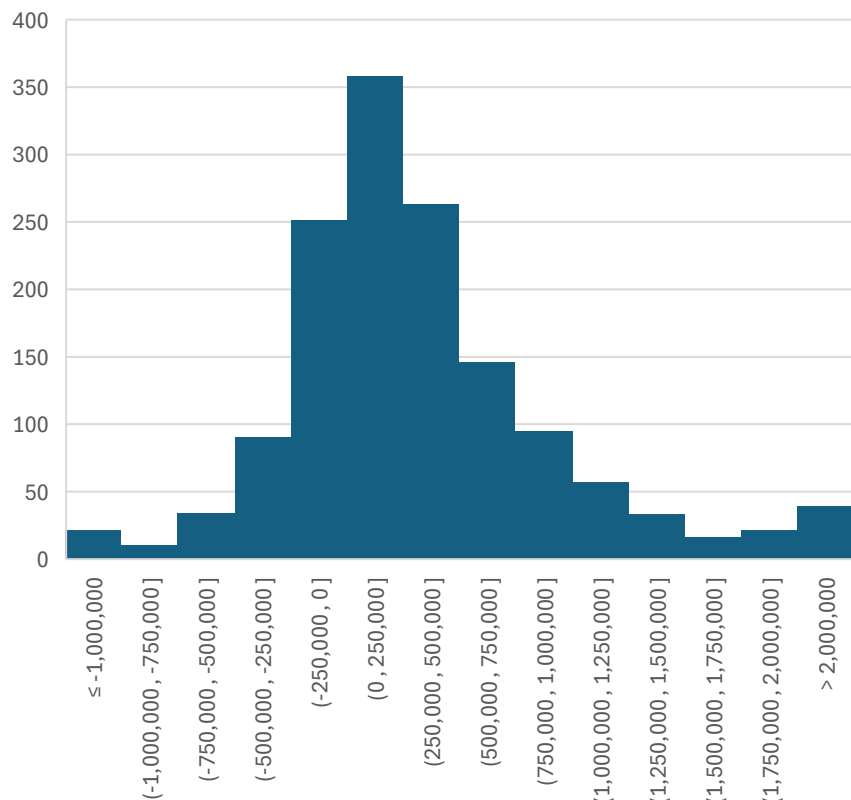
R1 (4~12月)

症例数が多く、Ⅱ期までの
点数が高いDPCコード

R6 (4~12月)

症例数

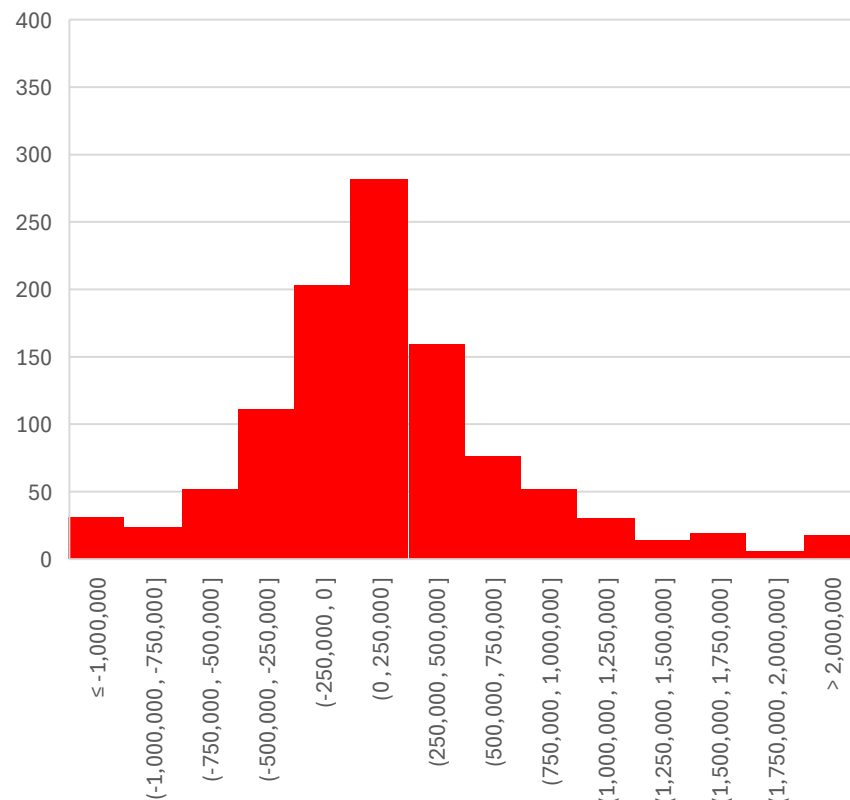
利益



R1 1症例あたり 338,700円

症例数

利益



R6 1症例あたり 173,690円

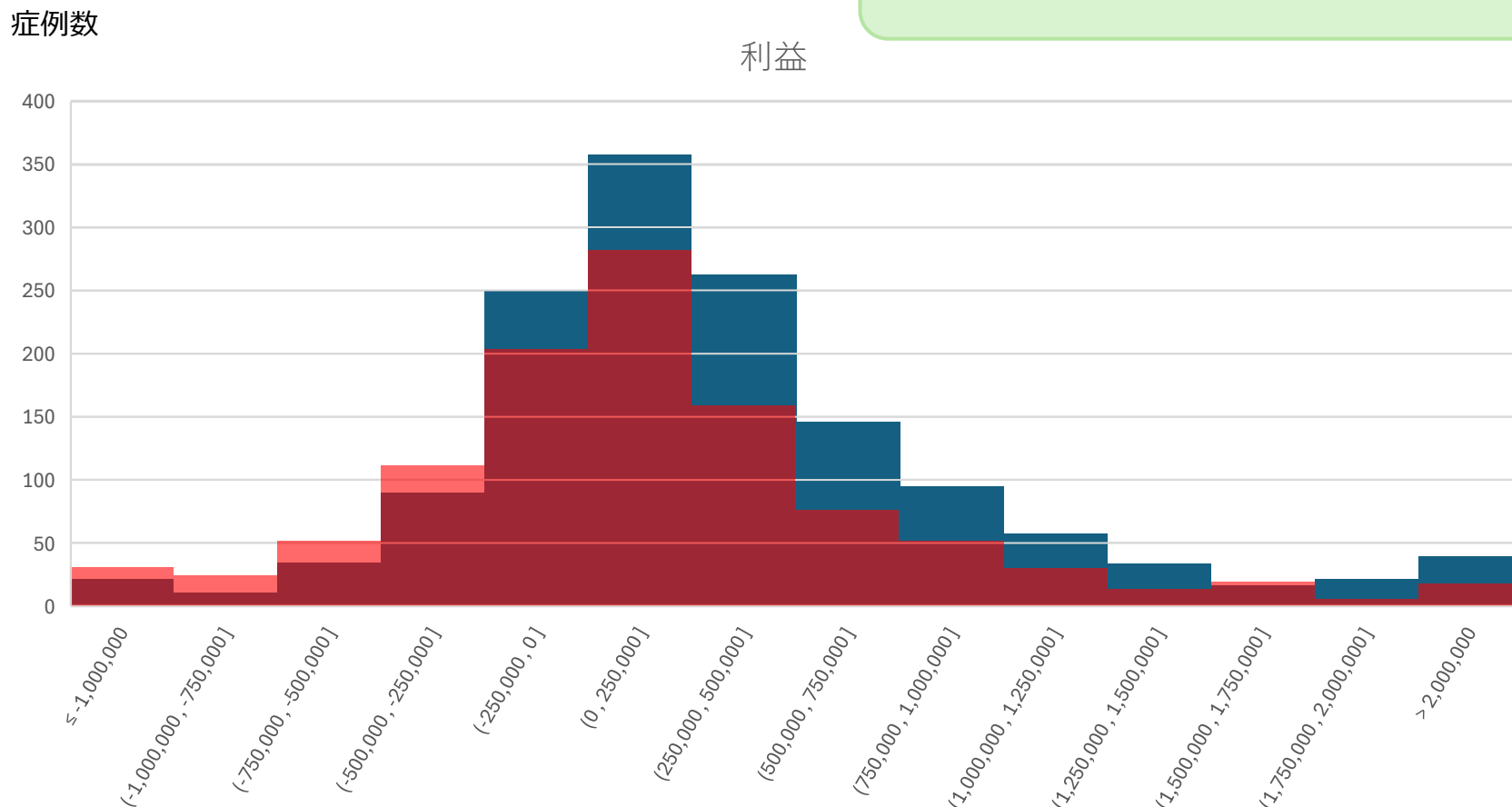
※利益 = 医業収益 - (費用 - 減価償却費)

参考資料2

130010xx97x2xx 急性白血病 /手術名 あり/ 手術・処置等 1 / 手術・処置等 2 2あり

■ R1 利益
■ R6 利益

利益の高い症例数が減少し、利益の低い症例数が増加している。



R1 1症例あたり 338,700円

R6 1症例あたり 173,690円